

2022年4月4日

NPO 法人国際人をめざす会
会長 山田 清實 様

第9回 Yokohama
地域学校協働活動フォーラム
実行委員長 高橋 由美子

第9回 Yokohama 地域学校協働活動フォーラム実施報告書送付について

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

第9回 Yokohama 地域学校協働活動フォーラムに、ご協力をいただきありがとうございます。ありがとうございました。

皆様のおかげさまで、初めてのオンライン開催でしたが無事終わることができました。当日は不慣れなことで不行き届きの点が多々ございましたこと、心よりお詫び申し上げます。

第9回 Yokohama 地域学校協働活動フォーラムについての記録を記した報告書を作成いたしましたので、お送りいたします。

先の見通しがつき辛い日が続きますが、貴社（貴団体）の皆さまのご健康と、益々のご繁栄を心よりお祈り申し上げます。

敬具

担当

矢部小学校 地域学校協働活動推進員

阿部 清

連絡先：kiyoabe@jcom.zaq.ne.jp

第9回 Yokohama 地域学校協働活動フォーラム

【報告書】

学びを止めない!その先に…

～これからの学びを考えよう!～



Chance!
Change!
Challenge!

チャ!チャ!チャ!
フォーラム

子どもたちのために
大人同士が
つながりましょう

子どもたちの“学び”を豊かにするために、様々な教育支援活動プログラムを提供する団体、学校関係者、行政職員、地域学校協働活動推進員（学校・地域コーディネーター）などが一堂に集う「第9回 Yokohama 地域学校協働活動フォーラム」は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からオンライン開催としました。

*この事業は、横浜市安全教育振興会の助成金を受け実施しています

- ◆開催日時：令和3年12月22日（水）14：00～16：45
- ◆対象：地域学校協働活動推進員（学校・地域コーディネーター） 教職員 行政職員
学校支援ボランティア 教育支援に関心のある企業・大学・NPO等
大学生 その他関心のある方
- ◆主催：Yokohama地域学校協働活動フォーラム実行委員会
- ◆共催：横浜市教育委員会
- ◆後援：一般社団法人 横浜市安全教育振興会 ◆協力：認定NPO法人こまちぷらす
- ◆参加者：80名（学校・地域コーディネーター/教職員/行政職員/企業・団体・学校支援ボランティア）

第9回Yokohama地域学校協働活動フォーラム実行委員会 委員長 高橋 由美子



本フォーラムは、様々な立場の方々が「子どもたちの未来を考える」よい機会として9回を迎えました。今回は、以前の参加者同士が互いに膝を突き合わせ、意見を出し合い、学び合う中で、「地域学校協働活動」を推進するための一助としての開催から、はじめてオンライン開催をいたしました。新たな学びから課題も見つかりました。それは出会いを楽しみ、つながりを大切にしていくなかで積み重ねとこれからの「持続可能な活動」のはじまりとなりました。本フォーラムに関わってくださったすべての皆様のご支援ご協力に感謝申し上げます。

横浜市教育委員会事務局学校支援・地域連携課指導主事 石澤 康史



全体研修会で、横浜市市民協働推進センターの協働コーディネーター森様と指導主事2名の話から、地域学校協働活動で大切なことは、学校や子どもたちにとって、何が必要なのか、どのような学校や子どもの姿を目指しているのか、それを地域学校協働活動に関わる全ての方が共有していることだと改めて感じました。学校、地域、ボランティア、企業、NPO等の全ての皆様と、子どもたちの未来の姿を共有し、学びの環境を豊かにしていきましょう。今回、オンラインフォーラムを実現してくださった実行委員、スタッフ、ご参加くださった全ての方に感謝申し上げます。

全体研修会「つながる つながり」本音トークライブを視聴

子どもたちの学びを豊かにするために「学校」「団体・企業」「コーディネーター」に必要なこと

〈横浜市教育委員会事務局〉学校支援・地域連携課指導主事 佐藤 洋平 小中学校企画課指導主事 池田 孝
〈横浜市市民協働推進センター〉協働コーディネーター 森 祐美子 〈学校・地域コーディネーター〉高橋 由美子

顔の見える関係が大事

学校のニーズをつかむ

主体は子どもたち

子どもたちも楽しい、
地域のみなさんも楽しいと感じられる

子どもたちが自分で考えて、
やってみたいことをやること
がとても大事

社会に開かれた教育課程、学ぶ場所としての
地域・企業とともに子どもを育てていくには
「はまっ子未来カンパニー」のように立場の
違う人々が「どんな風にどんな力を身に付け
させたいか」を共有する

大人が温かく見守ることで、
子どもが社会の温かさを知り、
生きる力が育まれる

目的は違うけれど「違う」
を前提に共有できる目標を
探し実現することで達成感
を得る



テーマ別交流会 8テーマ 40分×2回



* イマドキの学び、どう支援する？

1. 一人一台の端末 ～オンライン学習のメリットデメリットを考え、みんなでできることを話し合おう～
神奈川県警察本部サイバー犯罪捜査課課長補佐 夘野智喜氏・高校生サイバー防犯ボランティア

* 教えて！子どもたちの未来につながる取り組みって？

2. 子どもたちの身近なSDGsの取り組み方を考えよう
横浜市温暖化対策統括本部YES事務局
3. 地域を巻き込んだ子どもたちの学びを考えよう
学校・地域コーディネーター：和泉小学校／子安小学校

* 今こそつなげよう！教育支援プログラム

4. 子どもにつけたいチカラ ～求められる「教育支援プログラム」とは？～
横浜市教育委員会事務局学校支援・地域連携課指導主事
5. 出展団体が話す「学校とつながるコツ」～「なぜ」を解決する時間～教育支援プログラム提供団体
公益財団法人 日本数学検定協会／一般財団法人 言語交流研究所・ヒップファミリークラブ

* 地域とともにある学校づくり「地域で育てる子ども」

6. 「地続きの地域が学校と共に歩み・支える」とは？
一般社団法人横浜すばいす代表理事 北村克久氏
7. プロが教える！つながる極意 ～コーディネーターの引き出しを増やそう～
横浜市市民協働推進センター協働コーディネーター 鈴木智香子氏

* 聞いて納得！コーディネーターに聞く「地域学校協働活動」

8. 先生も！コーディネーターも！～何でも聞いてちょう話しちょう～



横浜市学校・地域コーディネーター連絡会

共有・報告 から

- ・「どんな町に住みたいのか、どんな町で子どもを育てたいのか」というイメージを持つことで地域が豊かになる
- ・福祉体験や企業、受験面接練習など、地域とのかかわりから子どもたちのコミュニケーション力が向上する
- ・企業や団体とのかかわりだけでなく、高校が地元の地域と密着した交流をするためのヒントをもらい後押ししてもらった
- ・YouTube配信によって広く伝える方法もある
- ・コーディネーターは少しの時間でも学校にすることで認知度が上がりニーズもつかみやすくなる
- ・学校とのつながりを維持していく
- ・コーディネーターが学校のニーズをうまく伝えることが大切
- ・子どもたちのいろいろな力を引き出す活動をしたい
- ・学校から地域に出ていくことが難しい
- ・「協働」は、地域住民の学びにもなる
- ・学校の子どもたちと大人と一緒に活動することで子どもたちが社会性を身に付けていく
- ・学校から直接問い合わせがあるほうが動きやすい
- ・学校との窓口を広くするとよい
- ・地域が学校に情報を伝える、地域が自分たちの役割は何かを確認し直す
- ・地域が活動を継続する
- ・情報リテラシーが本当に必要な人に関心をもってもらうためにどう呼びかけていくかが課題
- ・小中学生が興味のある話を糸口に、先輩だからこそ伝えられることを大切にしている
(高校生サイバー防犯ボランティア)
- ・地域に授業や行事の枠にとられない協力をしてもらいたい
- ・学校は地域のことを意外と知らない

参加者アンケートから

- ・もっと話をしたかった、聞いたかった
- ・オンラインのため参加しやすかった
- ・本校での今後の取り組みのヒントや後押しをいただけた
- ・職を超えた 様々な立場の方や地域の方と情報や考えを交換し交流することができた
- ・コーディネーターの 熱意を感じた
- ・学校だけではできないことがあるからこそ、家庭と地域とのつながりを大切にしていきたい
(一部抜粋)

第9回本フォーラムは、昨年の教訓を踏まえ、どんな状況でも開催できるようにとZOOMで行うことを決めました。ITに不慣れな実行委員メンバーにとってはハードルの高いものでしたが、横浜市市民協働推進センターのお力をお借りし教育委員会事務局と密にオンライン打ち合わせをすることで乗り切ることができました。そして当日参加された方々お一人お一人がこのフォーラムの成功を左右するものでした。全体研修会やテーマ別交流会の共有、アンケートから、何か新しい一歩を踏み出すヒントを得たと感じます。関わってくださった皆さま心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。(実行委員会一同)